

の客観化レーダチャートと比較して、「何が身に付き、何が身についていないか」を視覚的に確認し、振り返りを行えるようにした。課題として、レーダチャートの内容と実感にギャップがある、学生に inputs を促すための意義の浸透が不十分なため、2020年度以降各学科の教育改善への活用、学生指導への活用を強化することになっている。

③ 「大学教職員のリモートワークを目指した働き方改革の試み」

追手門学院大学では、2020年4月よりテレワークを全面展開し、大学管理部門の50%から60%の職員がテレワークに移行した。この背景には、ファイルサーバのクラウド化、オンライン会議システムの導入が2020年度開始時点で完了していたことでテレワークの導入がしやすい環境ができていた。また、電子決済システムの導入や会議のペーパーレス化は既に進められていたが、テレワークを推進するため、2020年度に職員が大学の自分用PCにリモートアクセスできる環境を整備した。

新しい生活様式に合わせた働き方に対応できつつあり、教育の質的転換に踏み出すことができた。テレワークが進んだ結果、教員に授業を見つめ直す時間が持てた。働き方改革が教職員にどのような心的変化をもたらすのか、働きがい、帰属意識、教員・職員の協働をテレワークでどのようにすすめればよいのか、などが課題としてあげられた。

④ 「在宅環境のセキュリティ対策」

テレワークの3大脅威として、仮想私設網(VPN)からの不正侵入、持ち帰ったパソコンへの攻撃、ビデオ会議の悪用などがあり、組織としてマルウェア対策(ネットワークの脆弱性対策、認証強化・アクセス制限、ネットワーク監視など)、フィッシング対策(だましの手口の周知、メール対策、Web対策)、遠隔侵入対策(パッチを空けられた場合の対応など)の強化を図ることが紹介された。

⑤ 参加者アンケートによる今後のテーマ、本協会への要望

※ 今後、本会議でとり上げるテーマ

- ・ 授業目的公衆送信補償金制度や著作権・肖像権の基礎知識
- ・ 業務オンライン化
- ・ コロナ禍の学生支援
- ・ AIを用いた学生支援
- ・ 対面授業と遠隔授業を組み合わせた実施事例
- ・ 遠隔授業・テレワークのセキュリティ対策
- ・ 印鑑廃止に伴う各種証明書、入学・学籍に関わる手続きのデジタル化の事例
- ・ 大学事務のRPA利用
- ・ 教学IR及び教学マネジメント体制の事例
- ・ 学修成果に関する産業界との協議体制など

※ 本協会の活動に対する要望

- ・ 管理者会議の継続とリモートによる会議、セミナーを希望
- ・ デジタル難民の教職員向けオンデマンドによるレベルに応じた講習会
- ・ 費用・手間等節約の面から、討議資料のデータ配信など

[他3] 研究会等のビデオ・オンデマンド配信

大学教員のFD、職員のSDの貴重な資料として、教育方法及び教材開発、教育・学修支援の情報通信技術活用などの講演、事例紹介の著作権処理済みコンテンツをデジタルアーカイブしてデータベース化し、希望する会員に有料でオンデマンド配信している。

コンテンツの構成は、2018年度(平成30年度)のコンテンツ122件、2019年度(令和元年度)のコンテンツ152件、2020年度(令和2年度)のコンテンツ97件で、371件となっている。

配信分配金は、正会員の規模に応じて33,000円から55,000円、賛助会員は一律44,000円となっているが、2年目(2019年度)のコンテンツ10分の1、3年目(2018年度)のコンテンツは全て無料としている。利用人数は無制限で、参加申し込みはWebサイトで行っている。